



Photo by Yukihiro Taguchi

# Smiling faces of miyakonojo 人の風景

## 一生懸命が道を開く

全日本ハンドボール男子ゴールキーパーコーチ  
都城工業高等学校教諭  
きたばやし けんじ さん  
北林 健治 さん



### 偶然始まったハンドボール人生

秋風が吹き少し寒くなった都城工業高校のハンドボールコート。「なぜこの練習をするのか常に考えろ」と熱のこもった指導の声が響きわたります。そこには、全日本ハンドボール男子のゴールキーパーコーチとして、東京2020オリンピックに参加した北林健治先生の姿がありました。

北林先生のハンドボール人生は、高校時代の友人が先に入ったハンドボール部に何げなく入ったことから始まります。

幼少期から負けず嫌いで、何事にも全身全霊で取り組む北林先生。高校3年間、熱心に部活に打ち込み、大学進学後もハンドボールを続けます。大学では、西日本インカレで優勝を飾るなど、レベルの高い環境の

中で結果を出していきます。そんな中、選手として全国の舞台を経験し、「高校の体育教員とハンドボールの指導者という夢を描くようになった」と話します。

### 生徒に教わった指導者理念

大学卒業後、宮崎市内の私立高校の体育教員として声が掛かった北林先生。教員をしながらハンドボール部の指導者として一歩を踏み出します。手探りで指導の中、結果が出ない年が続きましたが、6年後、宮崎県高校総体で見事に優勝を果たします。このとき、1チーム7人必要なハンドボール競技で、部員たった6人で勝ち取ったトップの座。「どのような環境でも目標を持って努力することが大切だと選手に教えてもらい、そのことが財産になっている」

と北林先生は当時を振り返ります。1997年、私学を退職し、宮崎県体育協会などで非常勤として働きながら、公立高校の教員試験を受けた北林先生。生活と勉強の両立で苦しい状況でしたが、自分を支えてくれた恩人や職場の先輩らの支えもあり、保健体育の教員として採用されました。

小林工業高校に赴任し、ハンドボール部を受け持った北林先生。「やるからには一番」という目標を掲げ指導に取り組みしましたが、急に環境が変わったと感じる部員の反発を受けます。衝突を繰り返しながらも、一生懸命な指導によって結果が伴い始め、まとまっていったチーム。2000年に宮崎県高校総体優勝を勝ち取り、2011年には、全国高校総体で優勝するまでにチームを育てました。

そしていつしか、これまでの努力が世界の舞台で指導する道を開かせることとなります。

### オリンピックの舞台へ

2013年、都城工業高校に異動した北林先生。さまざまな人の支えもあり、2015年には、全日本代表にゴールキーパーコーチとして呼

ばれ、世界の舞台に立つこととなります。

順風満帆なコーチ人生のように思われますが、道は決して平坦ではありませんでした。スペイン人やイスラント人の監督の下、他のコーチが目まぐるしく入れ替わり、いつ代表コーチと呼ばれなくなるかわからない状況が続きます。これまでの思いを胸に、必死にハンドボールや語学を勉強した北林先生。監督に認められ続け、いくつもの世界大会などを経て、ついに東京2020オリンピックに帯同することになりました。

多くの人の支えで、世界の舞台を4回経験した北林先生。「目の前の物事を一生懸命に充実させることが、大きな目標につながる。今この一瞬を大事にしてほしい」。先生だからこそ響く、エールです。

